

森のおくりもの7月



ミサキカグマ（オシダ科）



梅雨になって太陽が顔を出す日が少なくなり、深緑の森は一層暗く感じられます。森の木々の葉はずいぶん固くなってきたようで、静かにしているとパリパリと葉を食べる音が聞かれます。私たちが観察や散策におとずれる森はたくさんの生き物たちの生活の場所でもあります。葉の陰からこちらの様子をうかがっているかもしれませんよ。 【写真・文 館長：早坂 徹】

和菓子にも薬にもなるよ クズ（葛）



蜜の目印



下から順に咲いていく花。
真ん中の黄色は蜜のあり
かを示す目印。

何年前か、センター横のクズの蕾に穴が空いているのを見つけ、誰が食べたんだろう、と眺めていたら、なんと、ウラギンシジミの幼虫が！みごとに蕾に擬態していました。それ以来、クズの蕾を見つけたら、食痕がないか探してしまいます。

どこにいる？



ウラギンシジミの成虫



花のつぼみに擬態していたウラギンシジミの幼虫。蕾がなくなると葉に移動し、体も葉と同じ緑色に変わりす！体を優しくなでると、突起からピロピロと火花みたいなのを出してきましたよ。（突起がある方が後ろ。頭は右側にあります。）

秋の七草にも出てくる「クズ」の花、以前は8月に咲いていたのに、最近は7月末に咲いてしまいます。

どこにでも蔓延^{はびこ}って迷惑と思われがちなクズですが、太い根っこは葛^{かっこんとう}きりなどの和菓子や、葛根湯などの薬にもなるし、昔はツルの繊維で作った糸を織って（葛布）着物にもしていた、人との関わりが深い植物です。

葉は3枚で1セット。日照りが強く暑い日は、小葉を立てて、日の当たる面積を小さくします。

葉っぱが動くぞ！

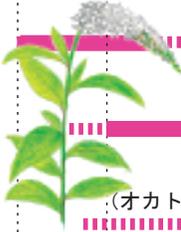
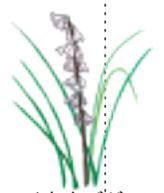
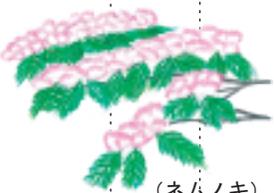
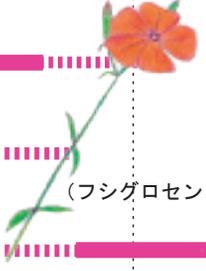


【レンジャー：黒川周子】

*「蔓（つる）が延（の）びる」と書いて「はびこる」と読みます。

7月の生物ごよみ

植物

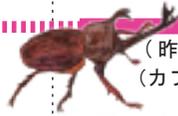
	6月		7月	8月	
	下旬	月上旬	中旬	下旬	月上旬
オカトラノオ					
クマノミズキ					
オオバジャノヒゲ					
ネムノキ					
ヤマユリ					
フシグロセンノウ					



サンショウクイ

今年はセンター周辺でサンショウクイの鳴き声がよく聞かれています。サンショウクイは夏鳥としてやってくる野鳥で、例年ですと5月に数回確認できる程度でした。今年は近くで営巣していたのでしょうか、5月半ばから現在（6月24日）まで、ほぼ毎日のように『ヒリリ、ヒリリ』というさえずりが聞かれています。センター前で小連れのサンショウクイをみたという話もあったので子育ても無事終わったのかもしれない。

動物

	6月		7月	8月	
	下旬	月上旬	中旬	下旬	月上旬
カブトムシが現れる					
ゲンジボタルが夜空を舞う					
ニイニゼミが鳴き始める					

【レンジャー：齋 正宏】

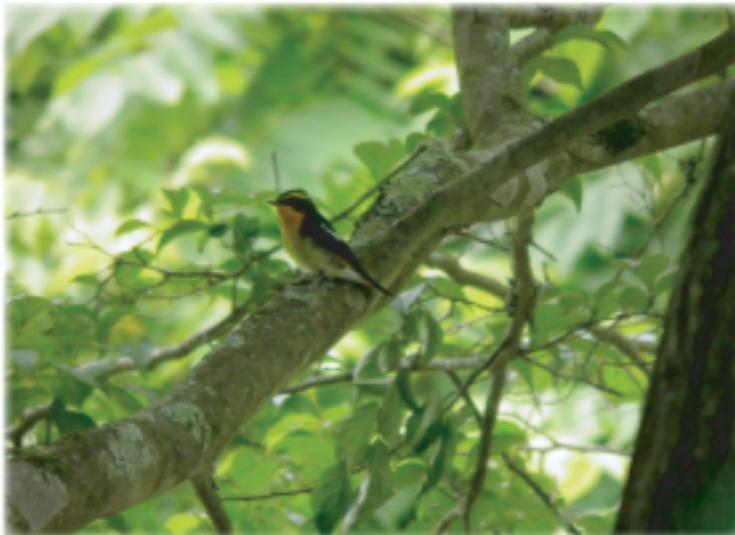
※ 夏鳥 春に東南アジアなどの越冬地から日本に渡ってきて繁殖し、秋には帰っていく鳥。日本にいる期間は種類によって違うが、おもに3月～10月の間になる。



レンジャーの森の雑記帳



太白山自然観察の森にも夏鳥が多く渡ってきます。そんな小鳥たちのなかで、気になっている野鳥がいました。キビタキです。巡回で森の園路を歩くたびに、野鳥の図鑑に載っているようなはっきりした姿は見ることはできませんでしたが、天上から降ってくるようなキビタキの高音のさえずりの声にいつも聞き惚れていました。キビタキはヒタキ科なのですが、広葉樹の中層で飛んでくる虫を待ち構えて、フライングキャッチする習性らしいので、呪文のように中層、中層と唱えながら目を凝らして探してみてもまったく見つからず、代わりに木々の深緑の間から楽器のピッコロのようなきれいな声が森の中で響いてきます。すっかり諦めかけていたある日のこと、いつもの巡回でカタクリ広場を歩いていると、突然目の前のエゴノキの枝に図鑑で見たキビタキがちょこんと止まって休んでいるのでした。あんなに探していたときは見つからず、忘れた頃にふいに現れてくれた野鳥に不思議な嬉しさがありました。先日、アメリカの女性の野鳥観察家の生誕を記念した紹介記事があり、彼女が不慮の交通事故で亡くなるまで、鳥の種の観察記録数が当時世界最高記録だったことも驚きだが、それは末期癌と宣告されてから野鳥観察にのめり込んだ末の記録でした。その女性は後に回顧録を執筆しています。



病の告知から突然の死を迎えるまで18年間もまだ見ぬ鳥を追い続けた生涯は、不思議な嬉しさに満ち足りていたのではないのでしょうか？ キビタキとの突然の出会いは至福の時となりました。

【レンジャー：阿部正明】



うなぎと山椒で夏を乗り切ろう！

山椒

山椒は小粒でもピリッと辛い

梅雨が明ければいよいよ夏本番！高温多湿の夏を元気に乗り切るために、土用の丑の日に栄養価の高いうなぎを食べるとい風習が日本にはあります。うなぎには必ず山椒の粉末をかけて食べますが、どうしてうなぎに山椒なのでしょう？

山椒は生薬として使われる場合、湿気を追い払い、胃腸を温め消化を促進させる効果があります。うなぎの油っぽさや臭みも消すとあれば、なるほど小粒でも侮れません。

- ・北海道から九州まで及び朝鮮半島南部に分布
- ・ミカン科サンショウ属
- ・落葉低木
- ・雌雄異株
- ・葉は奇数羽状複葉
- ・若葉や果実は香辛料
- ・太い枝はすりこぎ棒に



山椒

不思議クイズ

金華山に自生している山椒にはある特徴があります。それは鹿に関係がありますが、どんな特徴でしょうか？
(ヒント：食べられたくないもん)

答えはレンジャーに聞いてね



サンショウ
(とげが対生につく)



今年の土用の丑の日は
7月30日です

観察の森のいろいろな



サンショウつながり

カラスザンショウ

仲間

イヌザンショウ



冬芽がかわいい



とげが互生につく

トウホクサンショウウオ

山椒魚は両生類です。体が山椒の匂いがあるので嗅いでみてね♪



魚？

大好物



ナミアゲハの終齢幼虫

アゲハチョウの仲間の幼虫はサンショウの葉っぱが大好物。モリモリ食べて大きくなあれ♪

本当は食べてません



サンショウクイ

ヒリヒリという鳴き声がサンショウを食べたみたいということで名づけられました♪

【レンジャー：遠藤 和子】



7月のイベント & お知らせ

◆「夜の森の観察会」

- ・夕暮れから暗闇に移る時間。いつもと違う暗い森で観察会を開きます。
- 【日 時】7月9日(土) 19:00~20:30
- 【定 員】20名 【料 金】無料
- 【持ち物】長袖長ズボン・長靴・雨具・懐中電灯・虫よけなど
- 【申込み】7月6日(水)9:00より電話で受付〔先着順〕



◆「キッズ昆虫たんけん隊」

- ・昆虫を探して捕まえ、じっくり観察してスケッチしてみよう!
- 【日 時】7月16日(土) 10:00~12:00
- 【定 員】小学生15名 ※保護者の方は同伴できません
- 【料 金】無料
- 【持ち物】長袖長ズボン・雨具・帽子・虫よけ・飲み物など
- 【申込み】7月7日(木)9:00より電話で受付〔先着順〕



◆「館長と森を歩こう」

- ・早坂館長によるガイドウォークです。夏の森はワクワクが一杯です。館長と一緒に探検気分で行きましょう。 ※申し込み不要
- 【日 時】7月31日(日) 10:00~11:30



毎週
日曜は

『ガイドウォーク』の日!

7月の開催日は3日、10日、
17日、24日、31日です。

開催時間 午前 10:00~11:30
午後 13:30~15:00

申し込み不要。時間までセンター前にお集まり下さい。



表紙の絵や
原稿を募集
しています。

里山や自然に関するものを
描いて(書いて)ね!
レンジャーからのプレゼント
があるよ!!

7月の休館日

4日、11日、
19日、25日

♪森へおいでください♪



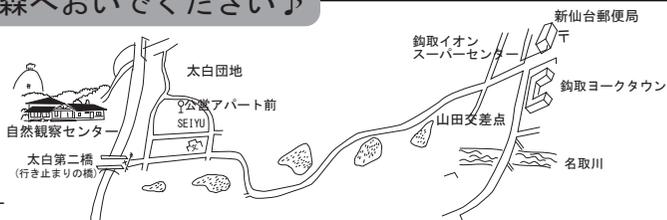
宮城交通バスの場合

仙台駅前バスプール7番 または 長町駅から
山田自由ヶ丘車庫 行きに乗り
公営アパート前 で下車、徒歩15分でセンター



お車の場合

国道286号線の山田交差点から太白団地方面へ。
道々の案内板に従って約10分で駐車場へ。徒歩5分でセンター



スタッフBLOG開始しました!
自然観察の森の最新情報、「森のおくりもの」
バックナンバーはWebでチェック!

2016年7月号 (毎月1回5日発行)
発行: (公財)仙台市公園緑地協会
編集: 仙台市太白山自然観察の森 自然観察センター
〒982-0251 仙台市太白区茂庭字生出森東36-63
Tel: 022-244-6115 FAX: 022-244-6133
E-mail: taihakan_moushikomi@sendai-green-association.jp

「社のひろば」URL: <http://www.sendai-park.or.jp/web/info/taihakan/index.html>